

固有値と対角化

Jacques Garrigue, 2016 年 12 月 9 日

補足

定理 5.3.1 A を n 次正方行列とする. λ が T_A の固有値であることが, $g_A(\lambda) = 0$ と同値である.

証明 λ が T_A の固有値である $\Leftrightarrow \text{null}(\lambda E - A) > 0 \Leftrightarrow \text{rank}(\lambda E - A) \neq n$
 $\Leftrightarrow \lambda E - A$ が正則ではない $\Leftrightarrow |\lambda E - A| = 0 \Leftrightarrow g_A(\lambda) = 0$

対角化

同値な行列 同じ線形変換を表現する行列を同値という. 具体的には, A と B を n 次正方行列とすると, ある正則行列 P により $B = P^{-1}AP$ ならば A と B が同値である.

行列の対角化 A と同値な対角行列 $B = P^{-1}AP$ を求めることを対角化という. P が実数行列なら A が実数上対角化可能で, P が複素数行列なら A が複素数上対角化可能という.

一般的には, 全ての行列が対角化可能ではない.

例題 $A = \begin{bmatrix} 8 & -10 \\ 5 & -7 \end{bmatrix}, P = \begin{bmatrix} 1 & 2 \\ 1 & 1 \end{bmatrix}$ のとき, $P^{-1}AP$ が対角行列であることを確認し, これを用いて A^n を計算せよ.

定理 5.4.2 T がベクトル空間 V の線形変換で, $\lambda_1, \dots, \lambda_r$ はその固有値とすると,

$$\sum_{i=1}^r \dim(W(\lambda_i; T)) \leq \dim(V)$$

証明 固有値の Vandermonde 行列式が 0 でないことを用いて, 相異なる固有空間のベクトルの非自明な 1 次関係が存在しないことを証明する.

定理 5.4.3 A が n 次の実数正方行列で, A の固有値を $\lambda_1, \dots, \lambda_r$ とする. A が \mathbf{R} 上対角化される必要十分条件は

$$\sum_{i=1}^r \dim(W(\lambda_i; T)) = n$$

証明 (必要) $B = P^{-1}AP$ で T_A が対角化可能とする. そのときに P の各列ベクトルが T_A の固有ベクトルであり, それぞれの固有値に分類できる. P は正則行列なので, その列ベクトルが 1 次独立で, 各固有空間の次元の和が n になる.

(十分) $\sum_{i=1}^r \dim(W(\lambda_i; T_A)) = n$ とすると, 各固有空間の基を集めると, n 個のベクトル $\vec{u}_1, \dots, \vec{u}_n$ が得られる. 定理 5.4.2 の証明で分かるように, その n 個のベクトルが 1 次独立で, \mathbf{R}^n の基をなす. T_A の $\{\vec{u}_1, \dots, \vec{u}_n\}$ に関する表現行列 B が対角行列で, $B = U^{-1}AU$ となる.

例題 $A = \begin{bmatrix} 7 & 12 & 0 \\ -2 & -3 & 0 \\ 2 & 4 & 1 \end{bmatrix}$ を対角化せよ.

例題 $A = \begin{bmatrix} -1 & 0 & 2 \\ 3 & 2 & 2 \\ 1 & -1 & 3 \end{bmatrix}$ が対角化可能かどうかを調べよ.

複素数体上の対角化 n 次の実数正方行列 A が \mathbf{R} 上で対角化ができなくても、複素数体 \mathbf{C} で対角化できる可能性もある. そのときの対角化可能性の条件は実数の場合と同じで,

$$A \text{ が } \mathbf{C} \text{ 上で対角化できる} \Leftrightarrow \sum_{i=1}^r \dim(W(\lambda_i; T_A)) = n$$

対角化の計算も同様にできる.

宿題の回答

問題 5.3.3(1)

$$\begin{aligned} A &= \begin{bmatrix} 5 & -4 & -2 \\ 6 & -5 & -2 \\ 3 & -3 & 2 \end{bmatrix} \\ g_{T_A}(t) &= |tE - A| = \begin{vmatrix} t-5 & 4 & 2 \\ -6 & t+5 & 2 \\ -3 & 3 & t-2 \end{vmatrix} \\ &= 2 \begin{vmatrix} -6 & t+5 \\ -3 & 3 \end{vmatrix} - 2 \begin{vmatrix} t-5 & 4 \\ -3 & 3 \end{vmatrix} + (t-2) \begin{vmatrix} t-5 & 4 \\ -6 & t+5 \end{vmatrix} \\ &= 2(-18 + 3(t+5)) - 2(3(t-5) + 12) + (t-2)((t-5)(t+5) + 24) \\ &= 2(3t-3) - 2(3t-3) + (t-2)(t^2-1) = (t-2)(t-1)(t+1) \end{aligned}$$

$$\lambda = -1, 1, 2$$

$$\begin{aligned} \vec{x} \in W(-1; T_A) &\Leftrightarrow \begin{bmatrix} 6 & -4 & -2 \\ 6 & -4 & -2 \\ 3 & -3 & 3 \end{bmatrix} \vec{x} = \vec{0} \Leftrightarrow \vec{x} = c \begin{bmatrix} 1 \\ 1 \\ 1 \end{bmatrix} \\ \vec{x} \in W(1; T_A) &\Leftrightarrow \begin{bmatrix} 4 & -4 & -2 \\ 6 & -6 & -2 \\ 3 & -3 & 1 \end{bmatrix} \vec{x} = \vec{0} \Leftrightarrow \vec{x} = c \begin{bmatrix} 1 \\ 1 \\ 0 \end{bmatrix} \\ \vec{x} \in W(2; T_A) &\Leftrightarrow \begin{bmatrix} 3 & -4 & -2 \\ 6 & -7 & -2 \\ 3 & -3 & 0 \end{bmatrix} \vec{x} = \vec{0} \Leftrightarrow \begin{bmatrix} 1 & -1 & 0 \\ 0 & 1 & 2 \\ 0 & 1 & 2 \end{bmatrix} \vec{x} = \vec{0} \Leftrightarrow \vec{x} = c \begin{bmatrix} -2 \\ -2 \\ 1 \end{bmatrix} \end{aligned}$$